

北里大学理学部同窓会報

2025年 第28号



資料提供：北里柴三郎記念博物館

● CONTENTS ●

会長挨拶	P 2	卒業研究功労賞	P 11
新任のご挨拶	P 3	2023年度北里大学同窓会特別奨励賞を受賞して	P 11
退任のご挨拶	P 6	近況報告バトンタッチ	P 13
2024年度理学部同窓会定期総会報告	P 8	理学部事務室より	P 15
集会援助手続	P 10	就職センター／同窓会からのお知らせとお願い	P 16

理学部同窓会ホームページ：

<https://kitasato-rigaku-d.jp> または <https://北里大学理学部同窓会.jp>





北里大学理学部同窓会長「二期目」を拝命して

理学部同窓会長 甲斐 恒人
(HC20)

会員の皆さんには、大過なくお過ごしのことと拝察申しあげます。

本年5月に開催されました定期総会におきまして再び理学部同窓会長を拝命いたしました旧衛生学部学科20期の甲斐恒人です。

第11期の役員ともども引き続きよろしくお願ひ申しあげます。

さて、第10期中（2021年度～2023年度）の活動を少し振り返りますと、はじめの2年間はコロナ禍にあり、様々な事業を延期したり、自粛することを余儀なくされた期間であったように感じております。

しかし、その期間中でも本会の基礎であり理事たちの意見集約の場である理事会をしっかりと開催できたことは、会長として大変うれしく感じています。このことは長年先輩方が築いてこられた本会の礎がさらに積み上がり、結果、役員間の意思疎通が高まり、その関係性が強固になったことを実感しています。

二期目におきましては、この素晴らしい強固な土台を活用して本会のさらなる高みを目指していきたいと考えております。

また、その一環として、前年度より理事会に陪席をお願いしておりました野原歩さん（SB24）、太田昌美さん（SB25）の2名を今年度の定期総会でご承認をいただき、新たに理事会メンバーに加わりましたことをご報告申しあげます。

このことにより、理事の世代交代が進み、理事会での意見が多様化していくことが予測され、本会がさらに一步前進する動機づけになるものと期待しています。

さて、北里大学ですが、相模原キャンパスが大き

く変貌しています。昨年度に開学した未来工学部データサイエンス学科の校舎が本年2月に旧衛生学部校舎跡地に完成し、また、本年4月には新看護学部校舎が、そして今秋には、新医学部校舎が完成する運びです。

なお、以前の看護学部校舎の跡地には、来年度に獣医学部グリーン環境創成科学科が開学予定です。

このように相模原キャンパスには、素晴らしい設備を有する新たな建物群が聳え立ち、未来を担う学生たちの息吹を感じさせる環境が醸成されてきたようになります。

さらに、本年度は新潟キャンパスに看護学科および医療検査学科からなる健康科学部も開学しています。

北里大学に関連するさらに嬉しいニュースとしては、去る7月3日に新たに発行されました新日本銀行券（千円札）の肖像画に学祖北里柴三郎博士が採用されたことです。卒業生としては大変誇り高きこと思います。

このことを記念して北里大学同窓会では、2025年3月7日から1泊2日で学祖のふるさと「熊本県小国町」を訪ねる旅が企画されました。同窓生の皆さんには多くのご参加希望をいただきありがとうございました。

私は微力ではありますが、与えられました会長職を全力で務めてまいる所存ですが、この先本会を発展させていくには、会員の皆さん方のご理解とご協力が不可欠です。

合わせて、第11期役員に対しまして、忌憚のないご指導、ご鞭撻を重ねてお願い申しあげる次第でございます。

2025年度 年会費納入のお願い

本会活動のより活発な活動の為に
2025年度会費の納入をお願いします。

年会費：3,000円

納入方法：

- 1) 他の金融機関から「ゆうちょ銀行」に振り込む場合：
 ■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900
 ■店番 029 ■預金種目 当座
 ■店名 ○二九店（ゼロニキユウ店） ■口座番号 0060155

2) 郵便振替の場合：

- 口座番号：00260-9-60155 ■加入者番号：北里大学理学部同窓会

★お知らせ★

本会会員同士で結婚されている場合の年会費は、お二人で1名分になります。
 年会費納入時に振込用紙の通信欄にご夫婦である旨と、氏名および卒業年、学科を必ず記入して下さい。



新任の挨拶

化学科 反応機構学講座 教授 末吉 健志

この度、丑田公規先生の後任として理学部化学科・反応機構学講座の教授を拝命いたしました、末吉健志と申します。着任にあたり、同窓会の皆様にご挨拶申し上げます。

私は京都大学工学部・工業化学科に入学後、大塚浩二教授が当時主催していた材料解析化学分野に配属されてから、いわゆる「分析化学」の研究を開始しました。最初に「電気の力で混合物を濃縮し、高感度な分離分析を実現する」ための理論・技術的研究を端緒として、アミノ酸やタンパク質、核酸など生体関連試料の「電気泳動分析」の基礎を学びました。

続く前職（大阪公立大学大学院工学研究科）では、久本秀明教授とともに「血液や唾液・尿、細胞破碎液など複雑な組成を持つ生体試料中の特定成分を簡便・迅速・高感度に測定するための微小分析化学」の理論・技術的研究に取り組んでおりました。その際、従来の電気泳動の基礎である「電気の力で電荷を持つ試料を分離する」という考え方を拡張し、「電気の力で分子を自由自在に操作する」理論・技術の開発に取り組んできました。また、自身の基盤技術である電気泳動と、「マイクロ分析デバイス」と呼ばれる微小分析技術を融合して、酵素活性の簡便・迅速・高感度な解析法や、生体内の稀少タンパク質の超高感度・迅速解析法などを開発してきました。これらの研究を通じて、ヒトの免疫機構に深くかかわるタンパク質である「抗体」の驚異的な能力に強い興味を持ちました。

皆さんの体の中でも活躍する抗体は、化学的には特定の標的分子のみと強く結合するタンパク質として知られています。その特性を利用して、「がん細胞や疾患関連タンパク質のみと結合して無害化する薬剤（抗体医薬品）」や「インフルエンザなどのウイルス感染を検出する診断キット（イムノクロマトグラフィー）」などの応用技術開発が世界中で進められています。しかしながら、一般的に抗体は生物・微生物由来でしか生産できないため、大量生産が困難かつ煩雑な精製を要しま

す。また、生物由来であるため抗体性能が不均一、タンパク質が変性しやすく保存安定性が低い、化学修飾による機能改変が難しいなどの理由もあり、市販化のコストが非常に高く医療費の圧迫が大きな課題となっています。

その解決の糸口として、私は「アプタマー」と呼ばれる核酸分子に注目しています。アプタマーとは、特定の標的分子だけと結合するという、抗体と似た性質を持つ核酸の総称です。抗体と比べて、アプタマーは人工合成による大量生産が可能、精製が容易、性能は配列依存で均一性がある、化学的にも安定で長期保存が可能、化学修飾による機能改変が容易など、優れた特性を持つ機能性分子です。将来的には、抗体からアプタマーへの転換による医療費の大幅な削減が期待されています。その実現に向けて、私がこれまでに積み上げてきた「電気の力で分子を操作する理論・技術」を基盤として、より高機能なアプタマーの選抜と応用技術開発に尽力してまいりました。その研究の過程で、「開発した理論・技術をより多くの方に届けたい」と強く願うようになりました。そのためには、医学・薬学・生命科学研究者との共同的な研究開発が必要であると考えて新たな研究フィールドを探していたところ、生命科学関連研究に強みを持つ本学に縁があって赴任できたことは本当に幸甚でした。

人生初の関東生活で不安や慣れないことも多々あったのですが、真面目で努力家の学生の皆さんや優しく協力的なスタッフの方々に恵まれ、とても良い雰囲気の中で新たな研究をスタートできました。今後、「反応機構学講座」を主宰するにあたり、「生体分子が関与する多様な化学反応を解析・解明・利用する研究」を中心として、全員一丸となって研究に取り組む所存です。加えて、他学部や近隣他大学との共同研究も含めて、基礎から実践まで幅広く研究を進めてまいりたく存じます。今後とも温かいご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願ひいたします。



分子機能化学講座、教授就任にあたって

化学科 分子機能化学講座 教授 長谷川 真士

この度、化学科分子機能化学講座の教授を拝命いたしました長谷川と申します。私は2007年に本講座（真崎康博教授）に助教として赴任して以来、多くの方々に支えられながら研究および教育に邁進してまいりました。今後は研究室を主宰する立場として、また、理学部を牽引する立場の一人として、一意専心の気持ちで取り組んでまいります。

理学部では、「理學力で未来を拓く」をキーワードに研究と教育を展開しております。「理」は物事の「ことわり」を表す漢字であり、現象に隠れた合理性を明らかにする意味があります。近年、中高生の理系離れや、基礎研究軽視の言説を耳にする機会が増えましたが、今一度、「なぜ？」というマインドを大切にしつつ、理学部における研究と教育に力を入れてまいります。今年度、分子機能化学講座（ゼミナール）では20名の4年生に加えて、5名の修士課程の学生と3名のスタッフでスタートいたしました。研究ディスカッションや学会発表、共同研究を通じて、「自分で考え、研究を遂行できる研究者」の育成を目標に研究教育を行います。また、外部資金を活用しつつ、海外研究室との交流や国際会議での口頭発表を積極的に行っていきたいと思います。

私たちは、分子の構造、すなわち「分子のかたち」に着目して新しい機能を示す有機化合物の開発に取り組んでおります。私は、その中でもキラルな π 共役系有機化合物を設計し、その構造と光物性の関連性を調査する研究を行っております。生体を構成する物質は、L-アミノ酸やD-グルコース、DNAの二重螺旋のように、その分子構造がどちらかのキラリティーのみに偏っている場合がほとんどです。このように生命体が作る分子の世

界は、左右の非対称性に満ち溢れています（ホモキラリティーと言います）。しかし、一般的な物理現象では、こうしたキラル対称性の破れは自発的には起こりにくく、生命のホモキラリティーの起源は未だに謎に包まれたままです。私たちの研究の興味は、「キラル化合物を起源とした対称性の破れ」にあります。例えば、キラル化合物には直線偏光を回転させる旋光性を持ちます。発光性のキラル化合物に自然光を照射すると、化合物のキラリティーに応じて、左回り、または右回りの円偏光を発光します。また、キラル化合物に電流を流すと、電流の電子スピンに左右の偏りが生じます（スピン偏極と呼ばれます）。これらの現象は、キラル分子自身が、自然光や電流といった対称的なインプットに対して円偏光やスピン偏極といった非対称なアウトプットを与える、いわば、対称性の破れを生み出す「メディエーター」として機能することを示しています。人類が手にことができるキラル化合物は全て生命が生み出したキラリティーを起源とするものですから、キラル化合物は、「自然の恵が私たちに与えた対称性の破れ」とも言え、ロマンを感じます。一方で、科学的には、どのような分子が非対称性を生み出すメディエーターとして優秀な機能を持つかは明らかではありません。この関係性は直感的ではないため、この「ことわり」を明らかにし、新しい学理を構築すべく、日々、様々な分子を合成し、その性質を調査する研究を行っております。これは円偏光の応用や電子スピン制御につながる性質なので、その先にどのような未来（応用）があるのか大変楽しみです。卒業生の皆様におかれましても、どうか私たちの活動を暖かく見守っていただければ幸いです。



教授就任のご挨拶

生物科学科 細胞生物学講座 教授 松田 知己

太田安隆先生の後任として生物科学科 細胞生物学講座教授を拝命いたしました松田知己と申します。この度は理学部同窓会報にて挨拶の機会を与えていただき感謝申し上げます。この場をお借りして、私の自己紹介と今後の抱負について述べたいと思います。

私は大阪大学工学部を卒業後、工学研究科 物質・生命工学専攻で超高熱古細菌に関する研究で修士号を取得し、博士課程では大阪大学理学部化学専攻にて当時蛋白質研究所で日本蛋白質構造データバンク (PDBj) を主催しておられた中村春木先生のご指導のもと、構造生物学分野の研究で博士号を取得いたしました。その後、理化学研究所横浜キャンパスでのポスドクを経て、バイオイメージングのための蛍光タンパク質等の開発を行っておられる永井健治先生が、北海道大学 電子科学研究所に研究室に立ち上げる際のメンバーとして参加しました。その後は、永井先生の異動に伴って前任の大坂大学 産業科学研究所へ移り、生細胞イメージング技術等の開発に従事しておりました。

細胞生物学研究では、ロバート・フックによるコルク切片からの細胞の発見に始まり、光学顕微鏡を用いた観察が古くから用いられてきました。さらに抗体を用いた免疫染色により、特定のタンパク質の、組織や細胞内での分布の観察が可能になりました。病理診断にも用いられる免疫染色は、細胞を固定してしまう為、生きた細胞で起こる現象を観察することができません。これに対して、蛍光タンパク質で標識した融合タンパク質を細胞内で発現させると、生きたままの状態で標的タンパク質の分布の時間変化を観察するライブイメージングを行うことができます。また、遺伝子でコードされているため、組み換え生物を作製して生物個体で観察を行うことも可能です。蛍光タンパク質を用いたイメージングは、もはや完成

し切っているのではないのかと感じられる方もおられるかもしれません、個々の生命現象を解明するためには改良すべき課題はまだ残されています。

これまで、私は蛍光タンパク質を用いて、生きた細胞内の Ca^{2+} 濃度変化やタンパク質間の相互作用などを、蛍光強度や蛍光波長の時空間的な変化として可視化、定量するための蛍光センサーの開発を行ってまいりました。また、光刺激によって構造変化を起こす光受容体タンパク質を用いて、細胞内の機能を操作することのできる光操作ツールの開発にも携わってまいりました。これらのタンパク質を用いた蛍光センサーや光操作ツールは、これまで細胞内で用いられてきました。私は、今後細胞内の環境に比べて過酷でライブイメージングや光操作が行われてこなかった細胞外にこれらを拡張し、細胞集団の形態形成に対して細胞の外からどのような働きかけがあるのかを紐解いていくための技術を開発して生物学・医学研究に貢献するとともに、細胞外からの操作によって細胞集団を目的の組織や器官の形成に導いていくことのできる技術に発展させていきたいと考えています。

北里大学では北里研究所の精神を引き継いで研究を大事にしていることを常々感じます。学生の皆さんにも、北里柴三郎先生のことを新千円札の肖像の人として身近に感じるにとどまらず、その精神も伝えていくことができればと考えております。一人一人の能力を引き出すべく、研究においては学生の皆さんのが自発的に意見を出しやすい雰囲気を作り、アイデアができる限り反映させ、卒業後にそれぞれが選んだ道で新しい価値観を提示してその分野を先導することのできる人物を育てていきたいと思っております。同窓会会員の皆様には今後ともご指導ご鞭撻賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。



退任にあたり

北里大学名誉教授 太田 安隆

私は本年3月に北里大学理学部を定年退職し、4月には名誉教授の称号をいただくことができました。同窓会の皆様には理学部在職中、就職ガイダンスなどで大変お世話になりました。ここで、改めてお礼申し上げます。

さて、北里大学での研究と教育については、最終講義で詳しくお話ししたので、今回は退職後の近況についてご報告したいと思います。私は、4月から神奈川大学理学部の特任教授として、神奈川大学横浜キャンパスで教員生活を継続しています。横浜キャンパスは、東急東横線「白楽駅」から徒歩で15分ぐらいのところにあります。「白楽駅」から大学に行く途中、昭和のレトロな雰囲気が漂うアーケードの商店街を歩くのが楽しみです。これから暑くなるとアーケードは日陰になるので、なおさら助かります。商店街を抜けると、神奈川大学までかなり急勾配の坂道を歩きます。通学中の学生達は、私のような年寄りの後ろについていくのを嫌うので、私のことを追い越そうとしますが、私は追い越されないように早足で歩くので、いい運動になります。

神奈川大学は理学部、工学部、情報学部などの理系学部の他に法学部、経済学部、外国語学部など文系学部が多くあり、図書館が非常に充実しています。本も50冊まで最長5ヶ月間借りることができます。私のような本好きには非常に嬉しい環境です。

さて、4月早々新入教員を対象にした教員研修会に出席しました。そこでは、法学部教授による「講義資料を作る際に注意すべき著作権について」という話が大変参考になりました。普段、講義資料を準備するのにいろいろな教科書や本の図表を使っていますが、著作権を侵害しないためには、どういう点に注意しなければならないか、よくわかりました。また、同じ教員研修会で、女子学生を「さん」付け、男子学生を「くん」付けというふうに男女で呼び方を変えるのをやめてほしい

いというリクエスト受けました。確かに私が米国で生活していたときには、ジョンやリサというようにファーストネームで相手に声をかけていたので、性別で呼び方を区別したことはありませんでした。研修会に参加して、自分が無意識に当たり前だと思っている社会の「しきたり」を意識化することも必要だと痛感しました。現在、学生からのメールの返信は全て「さん」付けで統一しています。

神奈川大学の講義が100分授業なのも新しい経験でした。学生が授業に集中できる時間はせいぜい20分程度なので、教員が100分間話し続けるのではなく、色々工夫して授業を行うように言われました。確かに私のつまらない話を100分間続けて聞かされるのでは、学生がかわいそうですし、私も100分間話し続ける体力の自信がありません。そこで、神奈川大学の100分授業では、30分間の講義、10分間の小テスト、10分間の小テスト解説をワンセットにして、短い休憩を挟んでこれを2回行うことになりました。神奈川大学では、北里大学理学部のGoogleclassに似たWebclassがあり、多肢選択問題などのテストやレポート課題を作成し、それを学生に配信することができます。

さて、現在行なっている前期の学部生対象の講義に加えて、夏休みには大学院生対象の集中講義があります。また、7月からは学部3年生対象の学生実習が始まります。私の実習では、大腸菌で作らせた組換えタンパク質の精製と活性測定という、遺伝子工学の基礎実験を行う予定です。これは、北里大学理学部で行っていた実習に手を加えたものです。

以上、しばらくは忙しい毎日になりそうですが、北里大学理学部での経験をこれから大いに活かすことができると思っています。最後になりますが、北里大学理学部と同窓会の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。



国の未来をつくる話

化学科 反応機構学講座 前教授 丑田 公規

定年後2か月の今は卒業生の皆さんを思う日々である。ゼミだけで250人程だが、皆、力強く人生を謳歌しているだろうか?と。最終講義を「人の未来と未来の人をつくる」としたが、13年間の私の思いと反省だった。

例えばゼミ卒業生に10名の博士とその候補がいる。偶然定年と前後して女性3名が博士号と職を得た。理系女子教育がやりやすいのは衛生学部時代からの伝統だろう。本人の努力の成果だが、入学から10年という長い期間を要することを実感した。女子にも厳しいことを言ったし、進学や学位取得の方向にバイアスをかけてきたが、その背景となった胸の内を書き残したい。

卒業生が、今の私の年齢になるころには人口は約半分になる。出生者数は、戦後3年が270万、私の1958年で150万、1974年生まれがサブピークで210万だが、あとは単調減少で昨年は73万:これは2017年に出た2050年の推計74万を下回る。コロナが明けても減少は止まないが、これは一大事で、端的に国GDPが半分になる。

雇用機会均等法制定時、女性進出という美辞麗句でサザエさんもフネさんも働いていただいたのは、個人の所得と消費の底上げでGDPを増やす先進国型経済への転換だったが、今度はそうはいかない。GDPは税収や国債や為替を通じて国家予算にほぼ比例し、例えば公共投資や科学予算や私学助成に影響するはずだが、国土やインフラ維持に削れぬ予算もあり、企業が倍儲けるか、国民が倍税金を払わなければ、道路も、空港も、小田急も、大学も現状を維持できない高コスト社会になる。

一方、政治家、経営者、教育者、研究者、医師など、社会を牽引する人数は簡単に減らせないから、候補者の減少は質の低下を招いてしまう。実力に見合う地位に就けなかつた優秀な女性を、再発見して活用しないと国の質が維持できないし、国際基準に追い付かない。

しかし、日本の社会や家庭では「優秀さは男性

のもの」という偏見が根強い。朝ドラの「トラバ」を見ると、ひどいことを女性に課してきた昭和平成であったと正直思う。そして女性が偉くなつてもらっては困る雰囲気のある日本社会は今も変わっていない。

「今は違う」という人事のうわべの言葉に、内定が欲しい4年生は騙されるが、例えば上司が女性で、叱責され、左遷されて、平静に受容できる男性はまだ少ない。業界によっては、経営陣は銀座でお姉ちゃんをはべらしているし、コンパニオンよろしく付き合いの良い女性だけをもてはやす。現役の大学生も男女そろって居酒屋で飲むのが「男女平等」だと思っているが、女性に愛嬌を求める価値観は男性のものだ。

パートナーになる男子にも気づいてほしいが、真の男女平等は、飲み会に付き合わず、子育て育児をこなしながらも、実力通り、思うとおりに個人の能力を生かして活躍できて、女性が男性を凌駕できることだ。理不尽なことが横行する場所もまだ多いので、博士や修士の学位は携帯武器であり、もうダメだと思った時の転職にも、育児後の再就職にも役立つから進学と学位取得を勧めてきたのである。

父親の反対で進学をあきらめる女子は多い。「花嫁姿を見るのが夢」などということは本来関係ないはずだが、お父様は50代を過ぎて、娘には、あまり優秀になってほしくないのだろうか。米国では1990年代「女性がマイノリティでないとポストに就けない」という時代があった。30年を要しても女性は大統領候補にもなれず、変化は「あの程度」なのである。日本でも研究会や学会や大学も男女共同参画が実現していないと役所から減点されるようになったが、きっと30年以上かかるだろう。

だからこそ、理系女性教育の砦である、北里大学理学部にはまだまだ頑張ってもらわないと。

2024年度理学部同窓会定期総会報告

1 開催日時・場所

- (1) 日時：2024年5月18日（土）13:00
- (2) 場所：相模原キャンパスL2号館3階309講義室

2 形式

- (A) 対面方式
- (B) オンライン方式（Zoomによる参加）
- (C) 書面審議方式
- (D) 議長に表決委任

3 出欠者

(1) 出席者106名

長原勝彦 (HC1)、坂口 洋 (HC2)、西尾公男 (HC3)、竹澤美男 (HC4)、中野勝雄 (HC5)、小沼和久 (HC6)、石原裕三 (HC7)、麻生綱男 (HC8)、石川一郎 (HC9)、石水和夫 (HC10)、國香 清 (HC11)、蓮沼良一 (HC11)、氏家重夫 (HC12)、藤本玲子 (HC12)、島崎道広 (HC12)、衣川佳美 (HC13)、内田 宏 (HC14)、森 孝之 (HC14)、伏見尚登 (HC16)、須貝昭彦 (HC18)、田所順一 (HC19)、八井田文子 (HC19)、飯島 宏 (HC20)、甲斐恒人 (HC20)、鈴木芳弘 (HC21)、小泉博之 (HC22)、山下宣行 (HC23)、椎名文乃 (HC24)、小笠原正勝 (HC25)、長谷部浩司 (HC27)、佐藤康之 (HC28)、千葉貴子 (HC28)、鈴木美香 (HC29)、渡辺知広 (HC30)、平井正美 (HC31)、福山勝也 (HC31)、村上裕章 (HC31)、石原 稔 (HC32)、伊藤昌史 (HB1)、木村武俊 (HB1)、坂内健志 (HB2)、鳩宮民安 (HB3)、矢口 晶 (HB4)、西條 謙 (HB4)、前川敏郎 (HB4)、篠川裕子 (HB5)、井村幸介 (HB6)、桑原美保子 (SP1)、酒井利奈 (SP1)、平山幸司 (SP2)、國廣喜央司 (SP6)、武者孔佑 (SP7)、小野憲司 (SP8)、松本俊英 (SP8)、田草川英昇 (SP9)、今村 敦 (SP10)、奥田悠介 (SP12)、高崎美文 (SP13)、杉本 愛 (SP15)、長谷川祐紀 (SP17)、原 英寿 (SP24)、須藤愛莉咲 (SP25)、阿曾哲也 (SP27)、中條絵子 (SC1)、矢野太一 (SC3)、中野章代 (SC3)、藤井祐介 (SC4)、田辺由美子 (SC5)、東海林周平 (SC6)、荒木恒平 (SC9)、前田晴紀 (SC9)、富澤良弘 (SC10)、曾根靖人 (SC11)、上村勇介 (SC12)、厚木将志 (SC13)、神田章宏 (SC14)、逸見拓谷 (SC17)、新美 恭 (SC18)、沖山悠太 (SC19)、吉成英里佳 (SC20)、沼上智美 (SC21)、小宮隆寛 (SC23)、中山真志 (SC24)、牧野健太郎 (SC25)、坂元風舞 (SC26)、中西伸一郎 (SC27)、田村 啓 (SB4)、三浦慎一郎 (SB5)、佐々木千明 (SB6)、吉野成嗣 (SB7)、江澤絵真 (SB9)、菅谷大地 (SB10)、齋藤昂良 (SB10)、石川早紀 (SB11)、石毛達也 (SB12)、森真美子 (SB14)、藤川圭太 (SB16)、小田本実佳 (SB17)、小田祐介 (SB22)、小寺穂乃花 (SB23)、小澤咲乃 (SB24)、野原 歩 (SB24)、常重貴裕 (SB25)、太田昌美 (SB25)、平尾 唯 (SB26)、尾崎邦洋 (SB27)

(2) 欠席者37名

(3) オブザーバー

名誉会長 沼上清彦 (HC6)

4 開会の辞

司会の松本俊英理事 (SP8) から、総会の成立要件は、規約第15条第1項第2号により、「総会の成立は構成員の3分の1以上の出席を必要とする。」と規定されており、構成員143名に対して、104名の出席（対面 37名、Zoom 3名、書面審議 48名、議長委任 16名）があり、本会は成立することが報告され、開会が宣言された。

5 議長団の選出

公正な表決と議事録の対応にあたるため、以下の議長団と議事録署名人を選任された。

- ・議長：沖山悠太 代議員
- ・副議長：前田晴紀 理事
- ・議事録署名人：須藤愛莉咲 代議員、八井田文子 理事

6 会長挨拶

甲斐恒人会長 (HC20) より、定期総会への出席に対する謝辞が述べられた。また、4年ぶりに新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されたことを受け、総会後には懇親会が開催される運びとなり、総会とは異なる場での意見交換や交流の機会として参加が呼びかけられた。

7 決議事項

第1号議案、第2号議案、第3号議案の件

初めに第1号議案 2023年度事業報告、第2号議案 2023年度収支決算報、第3号議案2023年度監査報告が以下のように提示され、賛成多数で承認された。

第1号議案 2023年度事業報告

1) 会報の発行

同窓会報第27号（通算53号）を2024年1月31日（水）に6900部を発行した。

2) 理学部教職員との懇談会

2023年7月8日（土）17時30分～19時30分に相模大野「すし魚菜 かつまさ」にて学部教職員と本会役員との懇談会を開催し、相互理解を深め、連携を強化した。

3) 会員集会への援助

2023年度集会援助の申請は無かった。

4) ホームページ等の運用

以下の項目などをホームページで適宜更新した。

①「第35回北里大学同窓会研究奨励賞」の募集について（エントリー者）

②同窓会報第27号（通算53号）を掲載

③2023年度会務予定を掲載

④2023年度年会費納入のお知らせ

5) 会員情報の管理

6) 理学部若手教員学術集会への支援

理学部の若手教員主催の勉強会「若手Lab」が開催され、本会からの援助金を支給した。

7) 第60回北里大学同窓会公開講演会（医療衛生学部同窓会担当）開催への協力

8) 第18回「卒業研究功労賞」の表彰

9) 準会員事業（卒業記念パーティー）への協力

卒業記念パーティーは実施されなかった。

10) 準会員との連携強化

新規事業として準会員の興味関心を引き、理解を深めてもらうため、サイネージを活用し「理学部同窓会」関連の情報発信を行った。

11) 退任教授への花束贈呈

2024年3月22日（金）13時00分～16時30分に相模原キャンパスL1号館63講義室にて開催された理学部の退任記念講演会に本会から10名が出席し、生物科学科細胞生物学講座太田安隆教授、化学科反応機構学講座丑田公規教授、化学科分子機能化学講座真崎康博教授に花束を贈呈した。教職課程の山本明利教授には閉会後の懇親会で本会から花束を贈呈した。

第2号議案 2023年度収支決算報告

収入の部

(単位：円)

費目	①予算	②決算	増減(②-①)
学部還元金	4,679,000	4,679,000	0
年会費	300,000	380,000	80,000
会報送料補助	458,000	458,000	0
利子	200	206	6
前年度事業資金	0	0	0
雜収入	0	0	0
積立金戻入	0	0	0
前年度繰越金	2,302,740	2,302,740	0
合計	7,739,940	7,819,946	80,006

支出の部

(単位：円)

分類	大項目	中項目	①予算	②決算	増減(②-①)
運営費	会議費	総会費	628,954		
		理事会費	1,800,000	1,391,239	△ 408,761
		委員会費	278,860		
	事務局費	事務人件費	1,450,967		
		通信費	24,934		
		物件費	58,321		
		雜費	100		
	涉外費	慶弔費	12,310		
		交際費	300,000	151,790	△ 148,210
	集会援助費		200,000	0	△ 200,000
事業費	会報発行		1,350,000	1,267,449	△ 82,551
	教職員との懇談会		250,000	188,320	△ 61,680
	講演会協力費		100,000	79,990	△ 20,010
	学術集会補助		50,000	50,000	0
	卒業研究功労賞		120,000	134,860	14,860
	ホームページ		100,000	49,858	△ 50,142
	準会員支援		200,000	0	△ 200,000
	積立金		1,400,000	1,400,000	0
次年度用事業資金		0	0	0	
予備費		89,940	0	△ 89,940	
合計		7,739,940	6,247,828	△ 1,492,112	
次年度繰越金					1,572,118

北里大学理学部同窓会 貸借対照表

2024年4月1日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	88,958	前期積立金	13,620,638
郵便貯金	556,434	次年度繰越金	1,572,118
普通預金	7,147,253		
事務局用普通預金	294,437		
定期預金	7,105,674		
合計	15,192,756	合計	15,192,756

第3号議案 2023年度監査報告

監査報告書

北里大学理学部同窓会規約第9条第4号の規定に基づき、2023年度（自・2023年4月1日 至・2024年3月31日）の会計並びに事業の執行を監査した結果、適正に処理されていることを認めます。

2024年4月6日

北里大学理学部同窓会

監事

監事

第4号議案 新代議員選任（3名）の件

2023年度卒業生（理学部27期）から、学部が推薦する以下の代議員候補者3名を新代議員に選任することが提案され、賛成多数で承認された。

・物理学科 阿曾哲也さん

・化学科 中西伸一郎さん

・生物科学科 尾崎邦洋さん

第5号議案 交代代議員選任（2名）の件

野原歩さん（SB24）、太田昌美さん（SB25）を本会理事に推薦するにあたり、交代代議員として同学科同期の以下の2名を候補として選任することが提案され賛成多数で承認された。

・理学部生物科学科24期 小澤咲乃さん

・理学部生物科学科25期 常重貴裕さん

第6号議案 現任代議員一括再任の件

1966年3月～2023年3月卒業代議員については交代者を除き、全員一括で再任されることが、賛成多数で承認された。

第7号議案 役員選任の件

以下の第11期役員候補者について、賛成多数で承認された。

会長 甲斐恒人（HC20）

副会長 須貝昭彦（HC18） 田村 啓（SB04）

松本俊英（SP08）

理事 蓮沼良一（HC11） 島崎道広（HC12）

藤本玲子（HC12） 内田 宏（HC14）

森 孝之（HC14） 八井田文子（HC19）

千葉貴子（HC28） 木村武俊（HB01）

西條 護（HB04） 前川敏郎（HB04）

福山勝也（HC31） 酒井利奈（SP01）

中野章代（SC03） 前田晴紀（SC09）

斎藤昂良（SB10） 霜田れもん（SB22）

野原 歩（SB24） 太田昌美（SB25）

監事 長原勝彦（HC01） 村上裕章（HC31）

・下線は新規役員

第8号議案と第9号議案の件

以下の第8号議案 2024年度事業計画案と第9号議案 2024年度収支予算案が提案され、賛成多数で承認された。

第8号議案 2024年度事業計画案

1) 会報の発行

同窓会報第28号（通算54号）を2025年1月に発行する。

2) 学部教職員との懇談会の開催

学部教職員との懇談会を2024年7月に開催する。

3) 会員集会援助の継続

同窓生が同期会等を開催する際、200名までは1名あたり200円を、201名以上は1名あたり100円を援助する。ただし、同一趣旨の会への援助は年1回までとする。

4) ホームページ等の運用

①新しい情報を会員へ提供するため、ホームページを随時更新する。

②SNS（X：旧Twitter）での情報提供に関して運用を継続強化する。

5) 会員情報の管理

本会の個人情報保護方針に即して、北里大学同窓会と連携しながら会員情報を管理・運営する。なお、会員集会援助に伴うDM用タックシールおよび当該名簿一覧表は継続的に提供する。

6) 理学部若手教員学術集会への支援

理学部の若手教員主催の勉強会「若手Lab」に対して援助する。なお、この会の活動は、理学部も認知しており、理学部（自己点検・評価委員会）から業績の評価対象になっている。

7) 第61回北里大学同窓会公開講演会（薬友会担当）開催への協力

2024年度に薬友会が担当して開催される北里大学同窓会公開講演会に協力する。

8) 第19回「卒業研究功労賞」の表彰

卒業研究において学生の取りまとめ等、秀でた活動を行った学生に対して卒業研究功労賞を授与する。

- 9) 準会員事業への協力（卒業記念パーティー）
卒業記念パーティーに祝い金を持参する。
- 10) 準会員との連携強化
引き続きサイネージを活用し「理学部同窓会」関連の情報発信を行い、準会員の興味関心を引き、理解を深めてもらう。
- 11) 熊本県小国町訪問（全学同窓会行事）への支援
全学同窓会の当該事業が実施された場合、理学部同窓会会員の参加者に対して1名あたり1万円（先着10名まで）の支援を行う。

第9号議案 2024年度収支予算案

収入の部

(単位：円)

費目	① 2024年度	② 2023年度	増減(①-②)
学部還元金	4,628,000	4,649,000	△ 51,000
年会費	330,000	300,000	30,000
会報送付補助	469,000	458,000	11,000
利子	200	200	0
前年度事業資金	0	0	0
雑収入	0	0	0
積立金戻入	0	0	0
前年度繰越金	1,567,118	2,302,740	△ 735,622
合計	6,994,318	7,739,940	△ 745,622

支出の部

(単位：円)

分類	費目	① 2024年度	② 2023年度	増減(①-②)
運営費	会議費	総会費 1,000,000 理事会費 550,000 委員会費 250,000	1,800,000 1,800,000	0
	事務局費	事務人件費 1,500,000 通信費 50,000 物件費 100,000 雑費 30,000	1,680,000 1,780,000	△ 100,000
	涉外費	慶弔費 200,000 交際費 100,000	300,000 300,000	0
事業費	集会援助費	200,000	200,000	0
	会報発行	1,350,000	1,350,000	0
	教職員との懇談会	250,000	250,000	0
	講演会協力費	100,000	100,000	0
	学術集会補助	50,000	50,000	0
	卒業研究功労賞	250,000	120,000	130,000
	広報費	100,000	100,000	0
	準会員支援	150,000	200,000	△ 50,000
	全学同窓会行事への支援	100,000	0	100,000
積立金	600,000	1,400,000	△ 800,000	
次年度用事業資金	0	0	0	
予備費	64,318	89,940	△ 25,622	
合計	6,994,318	7,739,940	△ 745,622	

8 質疑応答

井村代議員：理学部若手教員学術集会への支援で、理学部自己点検委員会から業績評価の対象になっているということであるが、どういうことなのか説明をお願いしたい。

[回答] 田村副会長：この研究会は、理学部でも認められている学術集会であることを伝えるために、このように記載しています。その集会に対して理学部同窓会としても支援を行っています。

石原代議員：代議員の定年制について取り決めはないのか。

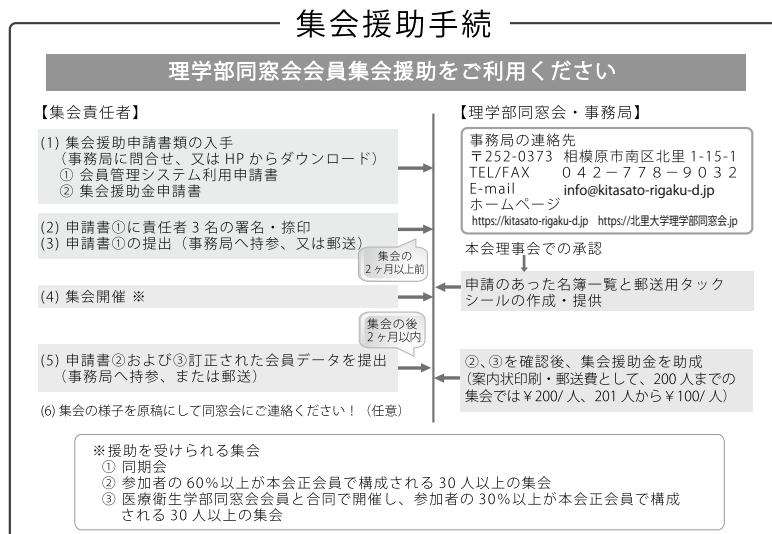
[回答] 沿上名誉会長：当時の長原副会長を委員長とする総務委員会による代議員数の動向のシミュレーションでは、卒業期の早い方から順次代議員が出せなくなっていて、増減がブロード化する確率が高いものであった。したがって、敢えて定年制を導入しなくとも「同科同期で代議員の死去や高齢化などにより代議員を選出もししくは補充できなくなった場合は、当該科・期の代議員を総会構成員に含めない。」というような取り決めを設ければ済むと考えている。

[回答] 甲斐会長：理事会で議論し来年の総会まで分かれば明文化できたらということで、今までの検討を再確認して明らかにしていきたい。

渡辺代議員：SNSの活用について、事業として計画しているならばもう少しフットワーク軽く活用しても良いのではないか。

[回答] 松本副会長：今後はX（旧Twitter）とデジタルサインをフル活用して、会員だけでなく学内の準会員に活動をアピールしていきます。

※総会終了後、理学部から化学科長 弓削秀隆 教授、生物科学科長 木村 透 教授、就職指導委員長 三森康義 教授、事務長 浅沼寿郎 様にご出席いただき、学部・各学科・就職・事務室などの近況についてご報告していただきました。また、記念写真を撮影後、大学病院本館6階職員食堂にて、懇親会を実施しました。



【同期会や研究室の同窓会を開催予定の方へ】

理学部同窓会では、正会員が同期会や研究室の同窓会（以下、同期会等といいます）を開催される場合に、当該名簿リストやタックシールの提供、それに通信費用の援助を行う事業を行っています。

加えて、平成29年より同期会等の開催を本会ホームページに掲載するサービスを新たに開始しておりますので、是非本制度をご活用ください。

詳しくは理学部同窓会のホームページ (<https://kitasato-rigaku-d.jp/>) をご覧ください。

第18回 卒業研究功労賞の表彰について

卒業研究功労賞は卒業記念パーティーにおいて表彰するのが慣例でしたが、コロナ禍ということでここ数年は開催されずになりました。

2023年度も卒業記念パーティー開催の予定がなかったため、理学部より2024年3月21日にパシフィコ横浜で行われた学位授与式終了後にお時間をいただき、学部から推薦のあった12名の卒業生に会長から賞状の授与と副賞の贈呈を行うことができました。理学部教職員の皆様、2023年度卒業生の皆様、貴重なお時間をいただきありがとうございました。



卒業研究功労賞（SB27武井咲香さん）

「2023年度北里大学同窓会特別奨励賞を受賞して」

HC14 森 孝之
(北里柴三郎記念博物館勤務)

北里柴三郎博士の肖像が表面、葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」が裏面に印刷された新千円札が2024年7月3日に発行されました。日本の近代化に尽力した偉人として日本にとどまらず世界の人々からも北里柴三郎の名前は認知されることでしょう。学校法人北里研究所北里大学の教職員、在校生、そして卒業生にとって誇らしい出来事です。この新紙幣発行の記念すべき年に「2023年度北里大学特別奨励賞」を受賞できましたことは私にとって望外の喜びです。実は2度目の申請で受賞できたからです。最初の申請では選考から漏れてしまいました。この今回の受賞は甲斐会長を中心とした理学部同窓会役員の皆様の暖かい後ろ盾と、更なる力強い推薦による結果と承知しております。皆様、どうも有難うございます。授与式は2024年5月19日（日）、午後1時から開催された2024年度北里大学同窓会定期総会にて執り行われました。会場は京王プラザホテル南館4階「錦」、その後、別会場で懇親会が開かれました。貼付の写真は懇親会場前のフロアで撮ったものです。ちょうどその場に居られた理学部同窓会役員の方たちに急遽集まって頂き撮影しましたので、お声かけできなかつた方々には申し訳ありませんでした。

北里大学同窓会規約には特別奨励賞規程が条文化されています。そこには表彰対象は学術、文化、スポーツ・芸能等の諸活動において顕著な功績を挙げ北里大学および北里大学同窓会の名を広く社会に知らしめた、という活動内容が示されています。私は、十分に受賞要件を満たしていたのだろうか。そこで卒業後の簡単な略歴を述べてみたいと思います。北里大学衛生学部化学科を卒

業後、社団法人北里研究所に入所し研究生活を送る中、2008年に社団法人北里研究所と学校法人北里学園北里大学が統合し学校法人北里研究所北里大学がスタートしました。それ以降、北里柴三郎記念室に配属され事務長として学祖北里柴三郎博士を顕彰してまいりました。2020年に退職したのですが、現在也非常勤職員として従来通りの業務に携わっております。顕彰業務の延長線上には北里大学一般教育部における「北里の世界」の講義に対する協力があります。自校教育の一環としてシラバスが組まれており複数人の講師の一人として1年間に4コマ担当しています。18年間継続しています。学祖としてその名を冠する北里大学の教育方針は紛れもなく代々継承されている「研究成果の社会への還元」という考え方であります。生命科学に特化し基礎から応用までを網羅する教育を基軸としています。日本医学史に残る功績を挙げられた学祖について大学入学して間もない学生に語るという授業は、言い換えれば理系の学生にとっての学びとは何かを「北里柴三郎」というフィルターを通して考えてみようという内容になっています。社会に有為な人材を輩出するという教育の目標に向けて1年次生における修養や教養を研鑽することは重要ではないでしょうか。

さて、ここで話は変わりますが博物館に見学に来られた方々から時折、質問を受けます。「北里柴三郎と北里大学とは同じ北里だけれども関連性はありますか」と尋ねてきます。「関連性は大いにあります」と答えています。北里大学には北里柴三郎の理念が込められています。感染症撲滅のために全身全霊を傾けた北里柴三郎は教育・研究・医療の各分野で突出した能力と手腕を発揮

し近代日本医学のために多大なる業績を残し、それが土台となり現在の生命科学が発展したと言っても過言ではありません。戦後復興から高度経済成長への移行期における日本を象徴する大事業として東京オリンピックが開催されたのが1964年で、北里大学はその2年前の1962年に衛生学部を以て開設されたのです。日本全体の教育の拡大と底上げが求められる中で、特に医療関連の教育の充実に焦点を合わせたのです。質問された方には以上のように回答しております。北里大学では学祖北里柴三郎が追求した理念が継承されており、これらの事を社会に知って貰うという意味では当博物館の存在意義は非常に大切であり大学の知名度アップ、ブランド力向上の一助となるのではないかでしょうか。実際、日本銀行券の改刷に際し、北里柴三郎の肖像が採用されたことは、博物館事業がもたらした成果の一つであり、それは北里大学の名を全国レベルへ押し上げるまたとない好機でもあります。私が特別奨励賞を受賞するに相応しいか否か。「君の活躍が社会における柴三郎の評価や認知度を上げたことで、肖像採用の条件を満たしたのではないですか」と同窓会員の皆様に言って頂ければ幸いです。

でも、振り返ってみると大学を卒業してから敢えて母

校を意識したことはありませんでした。皆様にもご理解いただけるかと存じますが、母校愛を前面に出し、「こんなこと、あんなこと」をすれば母校の役に立つとして活動している人は極めて稀かも知れません。逆にこの観点から考えると全学同窓会、学部同窓会の役員として同窓会運営に尽力し大学を側面から支えようと日々、努力していらっしゃる方々こそ特別奨励賞受賞者になりえるのではないかでしょうか。ただ、私自身これまで博物館職員としての業務ではありますが、外部からの依頼講演や執筆、取材等を受ける事で学祖北里柴三郎そして北里大学に対する認知度が上がったとすれば嬉しい限りです。卒業生だからこそこの視点で北里柴三郎関連資料の調査研究・展示保存等の顕彰事業を通して我々母校の伝統と革新を伝えられると考えています。

新規に北里柴三郎の肖像が採用されますとの報道が2019年4月9日になされてから、これまでに16件の依頼講演に対応すると共に、北里柴三郎に関する番組作成における協力依頼もありました。学祖北里柴三郎の認知度が上がれば、その結果北里大学の知名度、ブランド力向上に繋がるものと自負しております。今後も特別奨励賞の名に恥じぬよう活動していく所存です。



左から：蓮沼理事、甲斐会長、沼上名誉会長、八井田理事、筆者、酒井理事、田村副会長、松本副会長

近況報告バトンタッチ

『北里大学を卒業して今思うこと』

HB2 岩佐 剛

本年度、学祖北里柴三郎先生の肖像が日本国紙幣に採用されるという記念すべき年に同窓会報に寄稿させていただきますことを大変光栄に思うとともに、私などで良いのかという恐縮している心持ですが、後輩たちの為に一言投稿させていただきます。

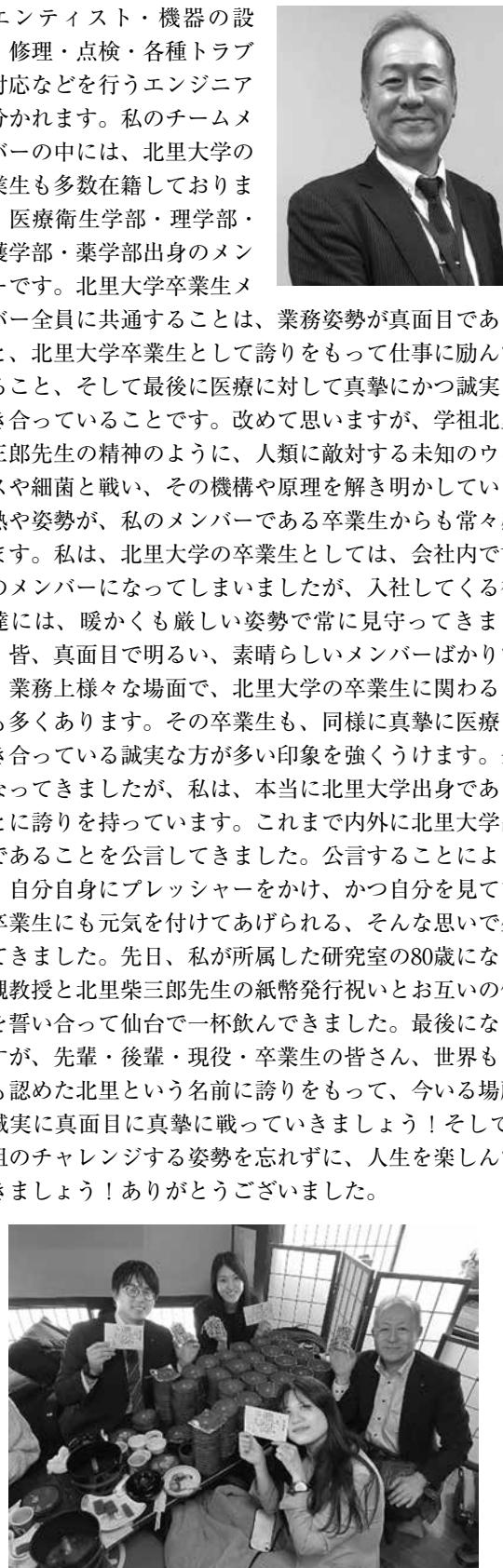
先ず、私の現在の仕事についてご紹介させていただきます。私は、現在、『ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社』（社名が長い為、以下ロシュ）という診断薬企業のカスタマーフロント本部という組織で第一統括長という役職を拝命しております。ロシュは、スイスのバーゼルに本社のあるグローバル企業です。大きく医薬品と診断薬の2つの柱でビジネスを開拓しており、私は診断薬部門に所属しています。取り扱っている製品は数千種類にも及びますが、主に病院・クリニックなどで取り扱う患者検体を用いて、生化学検査・免疫検査・遺伝子検査・血液凝固検査・病理検査・POCT検査・SMBG検査などを行う検査試薬や機器を取り扱っています。私の管轄している第一統括エリアは、東北6県+関東甲信越含めて、13県と大変広いエリアをカバーしております。

私は、卒業と同時にドイツに本社がある、ベーリンガー・マンハイム（株）という診断薬メーカーにDMRとして就職しました。最初の勤務地は大阪支店でした。1993年から6年間大阪支店で勤務しました。その後、1998年にスイスに本社があるロシュと私の働いていた会社が合併し、新しくロシュ・ダイアグノスティックス（株）が日本法人として誕生しました。合併してからは、名古屋支店に所属しました。その後、東京支店・東京本社勤務・仙台支店・札幌支店・関東支店と転勤を繰り返し、現在の第一統括長として、大宮オフィスで主に勤務するようになりました。名古屋支店在任中、金沢で結婚し、二人の娘に恵まれました。娘は、今大学4年生と2年生です。上の娘は、先日無事に就職が内定しました。私の担当エリアには、約70名のメンバーが所属しております。メンバーは大きく分けて3つの業務を担っております。検査試薬や機器をお客様に販売し、医療情報を提供するDMR・学術情報の提供や各種学術アドバイスを行なうサ

イエンティスト・機器の設置・修理・点検・各種トラブル対応などを専門とするエンジニアに分かれます。私のチームメンバーの中には、北里大学の卒業生も多数在籍しております。医療衛生学部・理学部・看護学部・薬学部出身のメンバーです。北里大学卒業生メンバー全員に共通することは、業務姿勢が真面目であること、北里大学卒業生として誇りをもって仕事に励んでいること、そして最後に医療に対して真摯にかつ誠実に向かっていることです。改めて思いますが、学祖北里柴三郎先生の精神のように、人類に敵対する未知のウイルスや細菌と戦い、その機構や原理を解き明かしていく情熱や姿勢が、私のメンバーである卒業生からも常々感じます。私は、北里大学の卒業生としては、会社内で古株のメンバーになってしましましたが、入社してくる後輩達には、暖かくも厳しい姿勢で常に見守っていました。皆、真面目で明るい、素晴らしいメンバーばかりです。業務上様々な場面で、北里大学の卒業生に関わることも多くあります。その卒業生も、同様に真摯に医療に向かっている誠実な方が多い印象を強くうけます。長くなってしまったが、私は、本当に北里大学出身であることに誇りを持っています。これまで内外に北里大学出身であることを公言してきました。公言することによって、自分自身にプレッシャーをかけ、かつ自分を見ている卒業生にも元気を付けてあげられる、そんな思いで生きてきました。先日、私が所属した研究室の80歳になる大槻教授と北里柴三郎先生の紙幣発行祝いとお互いの健康を誓い合って仙台で一杯飲んできました。最後になりますが、先輩・後輩・現役・卒業生の皆さん、世界も日本も認めた北里という名前に誇りをもって、今いる場所で誠実に真面目に真摯に戦っていきましょう！そして、学祖のチャレンジする姿勢を忘れずに、人生を楽しんでいきましょう！ありがとうございました。



参議院会館で宮島議員と



部下と盛岡でわんこそば

近況報告バトンタッチ

『Design my life』

SB8 仁平 直江
(旧姓:平)

2005年に生物科学科を卒業しました、仁平（旧姓:平）直江です。現在は聖マリアンナ医科大学で講師として癌研究に携わっています。

大学生活をふりかえって

私は中学・高校でテニス部に所属しており、ずっとテニスのことばかり考えて生きていたので大学入学まではほとんど勉強をしてきませんでした。そのため、大学への合格が決まった際、「人生で学生として勉強するのはもうこれで最後か。最後の4年くらいちゃんと勉強しないとバチがあたるかな」と感じ、4年間とにかく好きなことを思いっきり勉強しようと思いました。これは高校生の時にホームステイをした経験から思いついたのかもしれません（アメリカに住む私の知人は皆、高校では思いっきり遊び、大学でしっかり勉強していました）。大学では先生方が楽しそうに授業を展開して下さったため、「勉強」というよりも趣味を深めるような感覚で机に向かっていました。大学での4年間が楽しかったというのが仕事に活かされているのかなと感じています。

研究者を志すきっかけと近況

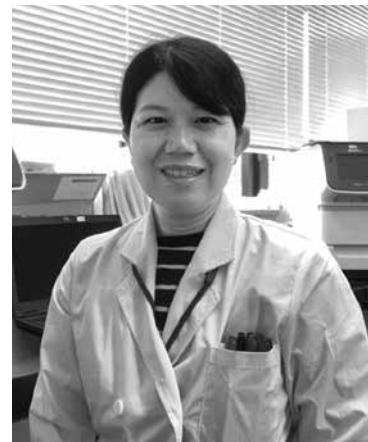
私の研究生活は大学4年次の卒業研究に始まりました。大学3年間の座学を通して生命科学に興味は大いにあるものの、実際にベンチの前に立っても何もできない無力さを痛感したことを今でも覚えています。外研先・進学先である東京医科歯科大学（現：東京科学大学）では、最先端の癌研究に触ることができ、研究に取り組む指導教官や先輩の姿を見て、「研究はまだ教科書に載っていない新しい生命現象を明らかにするという挑戦。私も自分で出来るようになりたい！」と感じました。あの日から今年で20年が経とうとしていますが、この気持ちは未だに変わりません。当時、女性の働き方は結婚や出産後に縮小する傾向にあったため、約10年後に起きた自身のエンドポイントを見据え、1日も無駄にはできないと研究・実験に打ち込みました。周囲からの支えもあり、卒業研究に開始した研究課題は修士2年次に論文化することができました。学位取得後も、周り

からのサポートに応えようと熱心に研究に取り組んでいたこともあり、多くの先生方が様々なキャリアパスを提示して下さいました。そのため、米国への留学も経験し、無事にキャリアパスを展開することができています。また、有難いことに旦那や子供・両親が健康で仕事への理解もあったため、大学4年時に見据えたエンドポイントを迎えることなく、今も研究を継続することができています。研究は自分らしさの表現の場だと思っています。他の職種に比べて自分の意思が反映されやすい職種だからこそ、生活スタイルに合わせて厳しい環境を選ぶも楽な環境を選ぶも全ては自己責任です。良くも悪くも自分にフィードバックされるので、それも仕事の楽しさとなっています。

今後の課題

マリアンナに移動してから製薬会社向けのセミナーや臨床の先生向けの講演をする機会が増えました。また、希少癌と呼ばれる、基礎研究がまだ行き届かない珍しい癌を治療する臨床医の先生とも話す機会もあり、臨床サイドが期待している基礎研究とは何か、癌の基礎研究者として自分には何が出来るのか、何をすべきなのか葛藤する日々です。

次は、鈴川茂君にバトンを渡します。バトンをお渡しする相手を探していたところ、北里の仲良しグループLINEで「活躍している卒業生」として多数お薦めをいただいた鈴川君。面白いお話を聞かせてくださると期待しています。そして、鈴川君に連絡をとるにあたり、協力してくれた皆さんにこの場を借りてお礼申し上げます。



理学部事務室より

● 2025年オープンキャンパス開催情報(未定)

日程は決まり次第、北里大学HP受験生サイトに掲載します。

各研究室を開放し様々な展示及び体験型実験教室、模擬授業等を開催する予定です。

● 2025年進学相談会

○入試対策講座開催情報（未定）

日程は決まり次第、北里大学HP受験生サイトに掲載します。学部別入試対策講座はオンラインにて開催する予定です。

○北里祭・進学相談会開催情報（未定）

日程は決まり次第、北里大学HP受験生サイトに掲載します。

サイエンスラボラトリー（物理学科）・教員による個別相談を実施する予定です。期間中は北里祭も同時開催されます。

● 入試過去問題

赤本オンライン（<https://akahon.net/kkm/kit/index.html>）にて公開しています（2024年度入試分から冊子での配布はしておりません）。

● 国際交流

理学部では、国際的な視野を備えた研究者の育成を目指すプログラムとして、毎夏、ハーバード大学との交流を2009年度よりこれまで、派遣・招聘を隔年で実施してまいりました。

2020～2022年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により残念ながら対面での実施を見送りましたが、2023年度はようやく対面による交流が復活し、6名の理学部生をハーバード大学に派遣しました。

現地では、研究者とのミーティングや病院施設・マサチューセッツ工科大学・Broad研究所を見学することができ、大変貴重な充実した交流となりました。

ハーバード大学との交流は、長年にわたりサポートいただきました生物科学科 太田安隆教授の退任により、現在は残念ながら中断しております。何とかしてこれまでに築き上げてきました絆を継続したいのですが極めて厳しい状況です。理学部ではこの交流の継続もさることながら、他大学との国際交流を進めてまいりたいと思います。

同窓会の皆様からも国際交流に関する情報を寄せいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。

● 求人情報をお寄せください

本学部の就職状況については、理学部同窓会のご支援もあり、毎年100%近い就職率を維持しておりますが、昨今の経済状況を鑑みると決して楽観出来る状況ではありません。学生たちは学業の傍ら、厳しい就職活動をぐぐり抜けなくてはなりません。そこで、同窓会の皆様におかれましては、益々のご支援、ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

求人票の学生への周知や、学内での企業説明会のご要望などを随時承っております。

● 理学部ホームページ

2023年11月に全面リニューアルしました。メインゲットである高校生に興味を持ってもらえるよう北里大学理学部の特徴をアピールし、また、各学科の実習の紹介動画も作成し、実習紹介ページから視聴できます。ぜひご覧ください。



● 理学部公式X（旧Twitter）

理学部の入試情報や、物理学科・化学科・生物科学科の最新情報・イベント情報などを発信していますので、ぜひご覧ください。



● 物理学科特設ページ（模擬授業の紹介）

主に神奈川県、東京都の高等学校を対象に、5つのテーマを用意し出張模擬授業を実施しております。詳しくは、北里大学理学部 物理学科特設ページ（https://www.kitasato.ac.jp/sci/resea/buturi/phys_sp/）をご参照ください。



お問い合わせ先

理学部入試にすること

TEL 042(778)9172（入試係直通） FAX 042(778)9953

就職にすること

TEL 042(778)8545（学生課直通） FAX 042(778)9953

大学院入試にすること（理学研究科入試係直通）

TEL 042(778)9083 FAX 042(778)9953

【就職情報・求人票ご提供のお願い】

北里大学就職センターでは、各企業・機関から受領した貴重な求人情報は、「進路支援システム」（本大学学生用就職情報サイト）に一括掲載し、全キャンパスの学生がWebで閲覧できるシステムになっています。

同窓会の皆様からも是非、後輩のために求人情報等を就職センターにご提供ください。手続きにつきましては、本学ホームページ「資格・就職」から「求人受付NAVI」（利用無料、企業登録手続きがあります）を通じ求人情報を入力することができますし、ご郵送・FAX・E-mailでも受け付けております。

卒業後に転職・就職を希望している方の既卒者専用「進路支援システム」がご利用できます。ご利用いただく場合には、下記①～⑤の情報を就職センターまでメールでお送りください。折り返し既卒者専用ID・パスワードをお知らせいたします。

*お電話でのお問い合わせはお受けしていません。在学時のID・パスワードは使用できませんので、ご注意ください。

■メール件名：進路支援システム利用希望

■メール本文：①氏名（フルネーム） ②卒業時の学部・学科・専攻 ③卒業年月

④学籍番号 ⑤システム利用の理由（例：転職等）

【北里大学就職センター】 〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
TEL 042-778-9745 E-mail syusyoku@kitasato-u.ac.jp

❖ 同窓会からのお知らせとお願い ❖

平素は同窓会活動にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。以下の点につきまして、会員の皆さまにお知らせとお願いがございます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

「同期会や研究室の同窓会を開催予定の方へ」

理学部同窓会では、正会員が同期会や研究室の同窓会（以下、同期会等という）を開催される場合に、当該名簿リストやタックシールの提供、それに通信費用の援助を行う事業を行っています。加えて、平成29年より同期会等の開催を本会ホームページに掲載するサービスを新たに開始しておりますので、是非本制度をご活用ください。詳しくは10ページの集会援助手続きや理学部同窓会のホームページ（<https://kitasato-rigaku-d.jp/>）をご覧ください。表紙のQRコードもご利用ください。

「理学部パンフレット同封について」

2008年第11号の会報発送より、北里大学理学部パンフレットを毎年1,000名の方々に同封しております。現在の北里大学理学部の様子がわかる他、ご子息・ご息女やお知り合いの方々に北里大学理学部を紹介いただければ幸いです。同時に、右記の理学部デジタルパンフレットのQRコードもご利用いただけます。



「同窓会へのメールについて」

近年、迷惑メールが増加しております。その判別のために、会員の皆さまが本会にメールされる場合は、「件名」欄に以下の事項をご記載くださいますようにお願い申し上げます。

<卒業年または卒業期、卒業学科、氏名>

記載例：1971年化学科卒業 理学太郎 または
6HC 理学太郎

「会報への寄稿について」

同窓会報は年に1度の同窓生との交流の場です。皆さまの近況報告や同期会のお知らせ、大学時代の想い出などをお気軽にご寄稿ください。同時に、会報へのご意見もお寄せいただければと思います。

編集後記

同窓生の皆さま、こんにちは。物理学科1期生の酒井利奈です。このたび、皆さまのご協力をいただき、理学部同窓会報第28号を無事に発行できました。心より感謝申し上げます。どうぞご一読ください。

さて相模原キャンパスでは2024年、新たな校舎が次々と完成いたしました。1月に看護学部と未来工学部の新校舎が、11月に医学部新校舎が竣工し、かつてのキャンパスとは大きく様変わりしています。機会がございましたら、ぜひ一度足を運んでみてください。

理学部同窓会では、会報に掲載する記事を引き続き募集しております。同期会の開催時には、近況報告や思い出などをぜひ事務局までお寄せください。また、会報に関するご意見やご感想がございましたら、今後の紙面作りの参考とさせていただきますので、併せてお寄せいただけますと幸いです。

同窓会報は私たち同窓生がつながりを再確認し、より深めるための大切な媒体です。離れていても、同じ時間を共有した仲間とのつながりは、何にも代えがたいものだと感じています。このつながりを未来へと紡ぐためにも、皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げます。季節の変わり目ですので、どうぞご自愛ください。

北里大学理学部同窓会報

発行 2025年1月31日

発行者 北里大学理学部同窓会

〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1

北里大学理学部内 TEL/FAX 042-778-9032

E-mail : info@kitasato-rigaku-d.jp

責任者 甲斐恒人